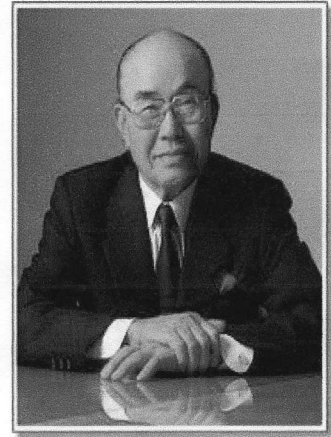


I LOVE YOU



世界の HONDA

創業者・本田宗一郎

宗一郎は小さいころから、ことあるごとに、お父さんからこう言われて育てられたそう。

「宗一郎、この世の中で大切なものは、お金でもなければ、地位でもない。他人に迷惑をかけるな。これが一番大事な事なんだよ」

お父さんは鍛冶屋をやっていた。頼まれれば鍋や釜でも喜んでなおしてやっていたので村の信用も厚かった。だから葬儀には何千人と集まった。

1991年8月5日

本田宗一郎は、いくつもの伝説を残し、息をひきとります。

宗一郎の葬式、お通夜はどのように行われたかということ、実は ……行われなかった。…行われなかった。

宗一郎は生前こう言っていたからです。

「自動車を作っている者が大袈裟な葬式を出して交通渋滞を起こすような愚は避けたい。もうすぐお迎えが来るが、何もするな」

「他人に迷惑をかけるな。これが一番大事な事なんだよ」宗一郎はお父さんとの約束を最後まで守った。

亡くなる2日前の真夜中、

宗一郎は奥様にこう頼んだという。

「自分を背負って病室の中を歩いてくれ」

奥様は点滴の管をぶらさげた宗一郎を背負い病室の中をゆっくりと歩いて回った。

宗一郎は奥様に「満足だった」という言葉を残してあの世に去った。

「女房には、まるっきり頭があがらなくて」これが宗一郎の口癖だったそう。

ここからは、僕の勝手な推測ですが、宗一郎は、奥様にだけは迷惑をかけっぱなしだったのではないかと、多分そうだと思うんです。宗一郎は死の2日前、俺の人生はお前にずっと背負われてきたようなものと 伝えたかったのではないかと僕は推測します。俺がここまでこれたのはお前に背負われていたおかげだと。

死んだあとでさえ迷惑をかけることを嫌った男が 唯一、迷惑をかけることができた人。それが奥様の存在だったのではないかと。

亡くなる2日前 病室で妻に背負われているとき宗一郎は、その全身で、声なき思いを妻に伝えていたと思う。

I LOVE YOU

ひすいこたろう